

福祉サービス第三者評価結果報告書（平成 28 年度）

平成 29 年 3 月 29 日

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
京都市松ヶ崎児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)
電話番号 03-3486-5141
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

| 評価者氏名 | 評価者氏名 | | 所属 |
|-----------|------------------------------------|------------------------------------|--|
| | ① | 依田 秀任 | 児童健全育成推進財団 事務局長 |
| | ② | 渡部 博昭 | 児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036 |
| | ③ | 豊倉 厚 | 児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1401038 |
| 福祉サービス種別 | 児童館 | | |
| 評価対象施設名称 | 京都市松ヶ崎児童館 | | |
| 施設連絡先 | 所在地 | 〒606-0967 京都府京都市左京区松ヶ崎小竹藪町 32-3 | |
| | 電話番号 | 075-791-8206 | |
| 施設代表者氏名 | 館長 横内 智美 | | |
| 契約日 | 平成 28 年 6 月 2 日 | | |
| 自己評価票回答期間 | 平成 28 年 9 月 12 日～平成 28 年 11 月 7 日 | | 館長・事務局回答項目 |
| 職員調査票回答期間 | 平成 28 年 11 月 1 日～平成 28 年 11 月 14 日 | | 職員回答項目 |
| 訪問調査日 | 平成 28 年 12 月 8 日 | | |

京都市松ヶ崎児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

| | | |
|---|---|---|
| 1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている | | |
| 1 | 事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している | |
| | 1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している | ○ |
| | 2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている | ○ |
| | 3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている | ○ |
| 2 | 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている | |
| | 1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている | ○ |
| | 2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している | ○ |
| 【講評】 | | |
| 法人として基本理念と児童館の重点目標を掲げ、その実現に向けた取り組みをおこなっています | | |
| ① 法人の基本理念は「京都市における社協行動指針2015」に明記しています。指針には児童館事業の「重点取組」を記載し、ホームページ、リーフレット、児童館の利用案内への記載などの方法で公表しています。利用者にも法人が目指す「基本目標」「重点目標」について理解が深まるようにしています。児童館ではその「重点取組」を基本として事業計画を作成しています。 | | |
| ② 業務権限や責任所在に関する規程を定めています。また、全職員対象の研修を開催し、法人幹部が講師となり児童館の現状課題や方向性を伝えています。 | | |
| ③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制により、運営主体の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換を円滑に図っています。 | | |

Ⅱ. 経営における社会的責任

| | | |
|---|--|---|
| 1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる | | |
| 1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している | | |
| 1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している | | ○ |
| 2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる | | ○ |
| 3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている | | ○ |
| 2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている | | |
| 1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる | | ○ |
| 2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している | | ○ |
| 2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている | | |
| 1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした 取り組みがある | | |
| 1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など） | | ○ |
| 2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている | | ○ |
| 2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している | | |
| 1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している | | ○ |
| 2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など） | | ○ |
| 3. 利用者や地域住民を対象としてボランティア育成をおこなっている | | ○ |
| 3 地域の関係機関との連携を図っている | | |
| 1. 地域の関係機関のネットワーク（連絡会など）に参画している | | ○ |
| 2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている | | ○ |
| 3. 小学校等利用者が関係する機関との連携を図っている | | ○ |
| 【講評】 利用者や地域の関係者に情報開示をおこない、透明性の高い児童館の運営を心がけています ① 職員心得やサービス姿勢を「社協信条」に明示しています。「倫理」についての研修をおこなうなど「職場倫理」の維持・向上に努めています。また、「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示をおこなっています。また、法人所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。 ② 京都市地域子育て支援ステーション事業の「基幹ステーション」として、子育てに関わる関係機関・団体のネットワークの基点となっています。 ③ 「ボランティアの手引き」を独自に作成し、ボランティア担当を決めてその受け入れを進めています。 | | |

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

| 1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している | | |
|---|--|---|
| 1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む） | | |
| 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている | | ○ |
| 2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる | | ○ |
| 2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる | | |
| 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる | | ○ |
| 2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる | | ○ |
| 3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している | | |
| 1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる | | ○ |
| 2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる | | ○ |
| 【講評】 利用者の意見・要望を受けとめ、児童館活動としての利用者サービスの向上に努めています ① 「苦情解決のための実務マニュアル」「苦情解決規則」を整備しています。法人に第三者委員会を置くとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意向を酌むことに努めています。 ② 「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。また、アンケート結果を児童館にて掲示・掲載することで利用者や地域住民へ公表し、透明性の確保とサービス内容の向上を図っています。 ③ 学童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して、個別的な要望や意向を把握しています。児童館と家庭の共通認識が図られるよう配慮しています。 | | |

IV. 計画の策定と着実な実行

| | | |
|---|--|-----------------------|
| 1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる | | |
| 1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している | | |
| 1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している | | <input type="radio"/> |
| 2. 年度単位の計画を策定している | | <input type="radio"/> |
| 3. 短期の活動についても、計画的（担当者・スケジュールの設定など）に取り組んでいる | | <input type="radio"/> |
| 2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している | | |
| 1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている | | <input type="radio"/> |
| 2. 計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している | | <input type="radio"/> |
| 3 着実な計画の実行に取り組んでいる | | |
| 1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している | | <input type="radio"/> |
| 2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している | | <input type="radio"/> |
| 2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる | | |
| 1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる | | |
| 1. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している | | <input type="radio"/> |
| 2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている | | <input type="radio"/> |
| 3. 利用者の負傷等に対応する傷害保険に加入している | | <input type="radio"/> |
| 4. 賠償すべき事故に対応する損害賠償保険に加入している | | <input type="radio"/> |
| 【講評】 法人の理念に基づいて事業計画を策定し、計画的な運営をおこなっています ① 「社協行動指針 2015」を基準として、児童館活動の基本的な方向性として事業計画を策定しています。地域福祉やコミュニティづくりを意識した児童館運営をおこなっています。 ② 職員行動評価の基準を作り、業績目標の設定と達成度について個別の評価をおこなっています。 ③ 法人独自に「事故や災害における予防と対応マニュアル」「衛生管理のためのマニュアル」等各種危機管理のマニュアルを整備し、避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。 | | |

V. 職員と組織の能力向上

| | | |
|--|-----------------------|--|
| 1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる | | |
| 1 事業所にとって必要な人材構成にしている | | |
| 1. 事業所の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している | <input type="radio"/> | |
| 2. 採用に対する明確な基準を設けている | <input type="radio"/> | |
| 2 職員の質の向上に取り組んでいる | | |
| 1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している | <input type="radio"/> | |
| 2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している | <input type="radio"/> | |
| 3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている | <input type="radio"/> | |
| 2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる | | |
| 1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる | | |
| 1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している | <input type="radio"/> | |
| 2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる | <input type="radio"/> | |
| 2 職員のやる気向上に取り組んでいる | | |
| 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている | <input type="radio"/> | |
| 2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる | <input type="radio"/> | |
| 【講評】 人事考課制度や職員ヒアリングを導入して、人材育成と組織力向上を図っています。 | | |
| ① 法人独自の人事考課制度により、望ましい職員像や行動基準に明らかにしています。 ② すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ③ 職員一人ひとりの研修受講状況を管理し資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を図っています。 | | |

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供

1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している

| | |
|---|-----|
| 1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している | ○ |
| 2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている | ○ |
| 3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している | ○ |
| 4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている | 非該当 |
| 5. 事業所の利用促進につながるよう創意ある広報活動がおこなわれている | ○ |

【講評】

ホームページなどを活用して情報が広く行き渡ることを意識した広報に努めています

- ① 毎月発行される「じどうかんだより」を2か所の小学校で全校配布して、子ども一人ひとりの手にわたるようにしています。また町内会での回覧、民生委員の「赤ちゃん訪問」の際に民生委員から手渡し、行事の告知や「じどうかんだより」をポスター化して地域の掲示板に掲示する、など対象者の目に留まりやすくなるように工夫をしています。
- ② ホームページを活用して児童館の様々な情報を発信しています。写真付きで児童館への経路や児童館でできることを紹介した「まっつがさき児童館ってどんなところ」や、クラブ活動やイベントの告知、アンケート結果の報告などを掲載して気軽に足を運んでもらえるように努力しています。
- ③ 児童館では「松ヶ崎自治連合会」の構成団体となって所属の各種団体と連携しています。その松ヶ崎学区ホームページに「じどうかんだより」を掲載し、毎月更新してもらっています。

2 サービスの実施

1 遊びの環境整備を行っている

| | |
|---|---|
| 1. 遊ぶ際を守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている | ○ |
| 2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある | ○ |
| 3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している | ○ |
| 4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている | ○ |

【講評】

利用者が気持ちよく過ごせるように、環境、プログラムなどの設定に配慮しています。

- ① 初めて児童館を利用する保護者には「利用案内」を渡して説明しています。館内での遊びのルールや決まりごと、子どもたちに伝わりやすい表現で館内に示しています。併せて職員が積極的に利用者に声かけをして、すべての利用者が気軽に気持ちよく過ごせるように配慮をしています。
- ② 遊具は備え付けの棚に整理整頓され、自由に取り出して遊ぶことができます。使用後は自分で片付けるように掲示をして促しています。
- ③ クラブ活動やイベントをととして異年齢の子どもが交流する機会を設けています。「やきいも」や「新春おたのしみ会」などの世代を超えて参加、交流できる企画もおこなっています。

2 乳幼児と保護者への対応を行っている

| | |
|---|---|
| 1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している | ○ |
| 2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている | ○ |
| 3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している | ○ |

| | | | | | | | | | |
|--|--|---------------------------------|---|--|---|--|---|--|---|
| | <p>【講評】</p> <p>ニーズに応じた様々な乳幼児活動がおこなわれています</p> <p>① 0歳児、1歳児、2歳児の登録制のクラブや、申し込み不要で自由参加の「子育てほっと広場」など、ほぼ毎日乳幼児親子のための活動があります。ホームページには各活動を紹介する年間のチラシが掲載されていて、わかりやすく情報が得られるようになっていきます。</p> <p>② 月齢が高い乳幼児クラブでは「おみせやさんごっこ」やワークショップなどの取組みで、保護者が企画・運営をする機会をもっています。活動を通して保護者が交流をさらに深める機会になっています。</p> <p>③ 月に1回実施される、民生児童委員協議会主催の「子育てサロン」では、保育所の保育士も入って子育て相談に応じる仕組みがあります。</p> | | | | | | | | |
| | <p>3 小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>日常の遊びや生活をとおして、子どもたちの発達を支援しています</p> <p>① 子どもたちが日常の遊びや生活の中で他者と協力して活動したり、自ら考えて行動する経験を通して社会性を高めることや、生活習慣を身につけたりすることを意識して支援しています。</p> <p>② 職員は来館するひとり一人にできるだけ声かけなどの目配りをして、子どもたちの状態を把握するように努めています。気になることがあった場合は、学童クラブ日誌や児童館日誌に記載しています。必要な情報は毎日おこなわれる昼礼などで報告して共有しています。</p> <p>③ クラブ活動や行事では、ひとり一人が遊びや練習に継続して取り組むことで結果が表れるようなプログラムや、みんなで話し合ったり協力したりしなければ達成できないようなプログラムをおこない、自主性や社会性を高めることに努めています。</p> | 1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している | ○ | 2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている | ○ | 3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている | ○ | 4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている | ○ |
| 1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している | ○ | | | | | | | | |
| 2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている | ○ | | | | | | | | |
| 3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている | ○ | | | | | | | | |
| 4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている | ○ | | | | | | | | |
| | <p>4 中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>中高生世代の子どもの利用促進のために努力をしています</p> <p>① 毎日午後5時以降の時間帯を中高生タイムとしています。この時間に卓球を目当てにして来館する中学生が利用しています。</p> <p>② 月に1回おこなう「中高生SPACE」では中高生世代の興味をひくようなプログラムを企画して、来館を促すための努力をしています。実施の際は午後7時まで開館して対応しています。利用者が固定化していますが、継続することを大切にして活動を続けています。</p> <p>③ 「中高生SPACE」のプログラムは中高生の意見を聞き取って、ニーズに即したプログラムを職員が決めています。今後は、中高生世代の子どもたちが「やってみたいこと」を自ら考え、決定し、準備、実行する経験をすることも視座に入れて、少しずつプログラムを委ねていくことも検討したいところです。</p> | 1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある | ○ | 2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している | ○ | | | | |
| 1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある | ○ | | | | | | | | |
| 2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している | ○ | | | | | | | | |
| | <p>5 子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある</td><td>○</td></tr> </table> | 1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている | ○ | 2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある | ○ | | | | |
| 1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている | ○ | | | | | | | | |
| 2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある | ○ | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|-------------------------------|---|--------------------------------|---|---|---|
| | <p>【講評】 子どもが意見を述べ、企画・運営する仕組みがあります</p> <p>① 自由来館児童が来館しやすい土曜日に自由来館児童を対象とした「子どもクラブ」という手づくりクラブを実施しています。クラブに登録したメンバーが話し合い、次に何を作るかなどの企画を決めて活動しています。</p> <p>② 春と冬におこなう「お楽しみ会」や「おぼけやしき」などの行事では、3年生以上の小学生に実行委員会のメンバーを募っています。実行委員会では、企画を考えたり、当日の進行をしたりしています。</p> <p>③ 子どもクラブや実行委員会の一層の充実や体験を積み上げることで、中学生になってからの利用の継続や「中高生 SPACE」の活動参画などに繋げていくことも考えられます。</p> | | | | | | |
| | <p>6 配慮を要する児童・家庭への支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="207 616 1316 660">1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある</td> <td data-bbox="1316 616 1468 660">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="207 660 1316 705">2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている</td> <td data-bbox="1316 660 1468 705">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="207 705 1316 772">3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている</td> <td data-bbox="1316 705 1468 772">○</td> </tr> </table> <p>【講評】 保護者の思いや要望を受けとめながら、連携して支援をおこなっています</p> <p>① 配慮を要する児童・家庭には「京都市児童館活動指針」で示されている「配慮を要する子どもへの支援」を参考にしながら対応を図っています。学童クラブに登録する障害のある児童については、統合育成の観点を重視して、介助者派遣事業なども活用して対応しています。</p> <p>② 学童クラブでは個人懇談を年2回おこなっています。この個人懇談は親の要望や考えを確認するほか、家庭や学校での子どもの様子を聞いたり、学童クラブでの様子を伝えたりする機会になっています。日常的には連絡帳を活用してやり取りをし、保護者から相談があればいつでも対応する体制になっています。</p> <p>③ 虐待等の事案が発生した場合は、民生児童委員や子ども支援センター、小学校などと連携して対応がおこなえる体制ができています。</p> | 1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある | ○ | 2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている | ○ | 3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている | ○ |
| 1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある | ○ | | | | | | |
| 2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている | ○ | | | | | | |
| 3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている | ○ | | | | | | |
| | <p>7 地域の児童の育成環境づくりを行っている</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="207 1243 1316 1288">1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td> <td data-bbox="1316 1243 1468 1288">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="207 1288 1316 1332">2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている</td> <td data-bbox="1316 1288 1468 1332">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="207 1332 1316 1377">3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td> <td data-bbox="1316 1332 1468 1377">○</td> </tr> </table> <p>【講評】 地域の健全育成団体等との連携を積極的に図り、地域住民の交流を進めています</p> <p>① 松ヶ崎学区民生児童委員会が主催する子育てサロンに会場とプログラムの協力をして乳幼児親子がゆったりした時間を過ごしています。ここには保育士の参加もあり、子育て相談もできるようになっています。また、子どもに関わる様々な団体やイベントのパンフレットやチラシを設置し、地域の子育て関係団体の情報提供もしています。</p> <p>② 「親子まつり」では、地域の関係団体、大学生ボランティアなどとの連携や協力のもと、地域での多世代交流が進められています。</p> <p>③ 2年前に自治連合会長、小学校長、地区社協会長、市政協力委員などがメンバーの「児童館運営協力会」を立ち上げました。年2回の会議では児童館職員が全員参加して、児童館の事業内容に関する情報提供や児童館に対する意見の聴取、地域での子どもの様子や育成環境に関する情報交換をおこなっています。</p> <p>④ 学童クラブの「入会のご案内」に地域安全マップを掲載して危険個所について注意を促しています。また、地元警察署と連携した「交通安全教室」の実施、交通安全協会や大学の協力を得て「飛び出し坊や」の制作、設置などもおこない、地域の子どもの安全確保に努めています。</p> | 1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している | ○ | 2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている | ○ | 3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある | ○ |
| 1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している | ○ | | | | | | |
| 2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている | ○ | | | | | | |
| 3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある | ○ | | | | | | |

| |
|--|
| <p>3 サービスの開始・終了時の対応 【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】</p> |
| |

| | | |
|--|--|---|
| 1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている | | |
| 1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している | | ○ |
| 2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている | | ○ |
| 3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している | | ○ |
| 2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている | | |
| 1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している | | ○ |
| 2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている | | ○ |
| 3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている | | ○ |
| 【講評】 新入会の子どもと保護者に丁寧に対応して不安やストレスが生じないようにしています ① 学童クラブ入会決定後におこなう「説明会」で「学童クラブ入会のご案内」を配布して、学童クラブの運営方針や育成目標、年間行事、統合育成について、保護者の協力が必要な事項などを保護者に詳しく説明しています。また、全入会世帯対象の「個人懇談」も年2回実施しており、保護者との信頼関係の構築、安心や納得を得ることに繋げています。 ② 4月の新一年生の利用初日には児童館の見学や、使い方、ルールなどの説明をおこなって、新しい環境のもとで不安なく新入学のスタートを迎えるように配慮しています。入学後は職員が学校まで迎えに行き、児童館までの道順や安全の確認を一緒にするようにしています。 ③ 退所や卒所の際には、引き続き児童館を利用して遊ぶことができることを子どもと保護者に伝え、不安やストレスを軽減するとともに、児童館の利用に繋がるように配慮しています。 | | |

| | | |
|---|--|---|
| 4 特に配慮を要する児童・家庭の個別状況に応じた計画策定・記録 | | |
| 1 定められた手順に従って情報収集、分析および課題設定を行い、子ども・家庭の課題を理解した個別の支援を計画している | | |
| 1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を、明示する手続きを定め、記録し把握している | | ○ |
| 2. 支援の計画は定期的見直しの時期と手順を定めている | | ○ |
| 3. 個別の支援内容は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して計画的に作成されている | | ○ |
| 4. 計画を保護者にわかりやすく説明している | | ○ |
| 5. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関との連携を図っている | | ○ |
| 6. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている | | ○ |
| 2 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している | | |
| 1. 配慮を要する子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある | | ○ |
| 2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している | | ○ |
| 3 配慮を要する子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している | | |
| 1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している | | ○ |
| 2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している | | ○ |

【講評】

個人懇談で保護者と情報を共有し、子どもの状況に応じた支援を検討する体制があります

- ① 保護者から京都市共通書式の「児童の状況報告書」を提出していただくとともに、保護者との個人懇談会で子どもの家庭での状況や保護者の要望を把握して「児童の状況報告書」に追記し、支援の方法を検討しています。
- ② 日々の学童クラブでの状況は館で独自に用意した「個別記録ノート」に記録して、保護者と伝え合うなどの連携を図るほか、毎日おこなう昼礼により職員間で情報を共有し、どの職員でも同様の対応ができるようにしています。
- ③ 配慮を要する児童については、小学校や民生児童委員と連携して情報の共有を図っています。

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

1 子どものプライバシー保護を徹底している

- | | |
|--|---|
| 1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている | ○ |
| 2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている | ○ |

2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

- | | |
|---|---|
| 1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している | ○ |
| 2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている | ○ |
| 3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している | ○ |
| 4. 子どもの権利擁護のための規定が定められ、公表されている | ○ |

【講評】

個人情報保護や子ども・保護者の権利について高い意識をもって支援をおこなっています

- ① 法人で規定している「個人情報の保護に関する方針」を館の入口に掲示し、誰でも確認ができるようになっています。この方針に基づき、メール配信、写真利用などは書面で保護者の同意を得た後におこなうようになっています。突発的に生じた個人情報のやり取りについても必ず保護者の承諾を得ています。
- ② 法人が実施する職場倫理に関する研修を職員全員が受講し、子どもや保護者の権利、一人ひとりの尊厳について理解したうえで日々の業務にあたっています。また、昼礼の中で子どもへの対応や言動について意見交換をし、確認する機会を持っており、日頃から各自が行動を振り返りながら行動しています。その際には法人共通の「職場倫理チェックシート」も活用しています。

6 事業所業務の標準化

1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

- | | |
|---|---|
| 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている | ○ |
| 2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している | ○ |

2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

- | | |
|---|---|
| 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている | ○ |
| 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている | ○ |
| 3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる | ○ |

3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

- | | |
|--|---|
| 1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている | ○ |
|--|---|

| | | |
|--|--|---|
| | 2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している | ○ |
| | 3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している | ○ |
| | 4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている | ○ |
| | 【講評】 マニュアルを適宜活用し、児童館活動の標準化とサービス水準の確保に努めています。 ① 「京都市児童館活動指針」に基づいて児童館活動をおこなっています。 ② 「事故や災害における予防と対応マニュアル」「衛生管理のためのマニュアル」「実習生受け入れマニュアル」など、法人独自のマニュアルにより、現場でのさまざまな状況に対応しやすい状況をつくっています。小学生、中高生世代、保護者に対し利用者アンケートを実施して、地域の特色を活かした児童館運営をおこない、サービス・活動内容の見直しを図っています。 | |

VII. 情報の保護・共有

| | | |
|-------------------------------------|---|---|
| 1 情報の保護・共有に取り組んでいる | | |
| 1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる | 1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している | ○ |
| | 2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している | ○ |
| 2 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している | 1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している | ○ |
| | 2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている | ○ |
| | 【講評】 個人情報等の重要な情報は、規程を整備して適切に保持・管理しています ① コンピュータにはアクセス権限をかけ、万全に情報管理しています。 ② 必要な情報は職員が共有する仕組みを整え、個人情報のデータはサーバーで整理・保管しています。 ③ 「個人情報保護規程」「個人情報保護規程に関する事務取扱要領」を整備し、個人情報を適切に管理するとともに、準職員、実習生、ボランティアにも守秘義務を徹底しています。 | |

総評

■特に良い点

| | |
|-------|--|
| ポイント1 | 法人の基本理念となる「社協行動指針」が策定・明示されています。 |
| | 「社協行動指針」により基本理念が法人から児童館に周知徹底され、利用者に「理念」「目標」「重点取組」を伝える姿勢があります。児童館では「社協信条」「基本理念」等を玄関入口に掲示して利用者に対して法人、児童館が目指している姿を明らかにしています。エリアごとに児童館長の協議体制をつくり、運営主体の意向や円滑な事務遂行を進めています。 |
| ポイント2 | ホームページを活用して、情報が広く行き渡るように努力する姿勢が見られます |
| | ホームページを活用して、児童館の情報が広く行き渡るように努力する姿勢が見られます。写真付きで児童館への経路や児童館で活動できる内容を紹介した「まつがさき児童館ってどんなところ」は、これから児童館を利用しようと考えている方に安心感を与えます。「乳幼児活動のチラシ」は児童館でおこなわれている乳幼児活動が一覧できるようになっています。その他、クラブ活動やイベントの告知、アンケート結果の報告なども掲載して気軽に足を運んでもらえるように努力しています。また、連携している松ヶ崎自治連合会のホームページにも「児童館だより」やイベントの開催報告などを載せてもらっています。今後は一層の内容の充実、一般来館児童・中高生世代に向けた広報の拡大が期待されます。 |
| ポイント3 | 地域の育成環境づくりを進めるために、関係団体との連携に取り組んでいます |
| | 平成 26 年度に児童館運営協力会を立ち上げました。年 2 回の会議では全職員が出席して、児童館事業の説明や意見聴取、地域の子どもたちの状況について情報交換などをおこなっています。運営協力会を通して、地域の関係団体の児童館活動への理解と協力、連携の体制が強まっています。児童館が主催する「親子まつり」は 34 回を迎え、地域の関係団体、大学生ボランティアなどとの連携、協力のもと開催されています。地域の多世代交流の場と位置づけられ根付いており、児童館活動に触れ、子どもの育成環境に関心を向ける機会になっています。 |

■改善が望まれる点

| | |
|-------|--|
| ポイント1 | 配慮を要する児童の支援に関わる仕組みの整備が必要に思われます |
| | 配慮を要する児童についての情報を「個別記録ノート」に記しています。また、年 2 回実施している「個人懇談」での保護者との伝え合い、毎日おこなわれる昼礼や介助者会議での職員間の情報共有や意見交換など、配慮を要する児童に関する丁寧な対応が見られます。さらに、その情報を元にした個別の支援計画の策定、支援の効果の検討、計画の再編などの継続的な支援の観点に立った書類や仕組みが必要と思われます。他の先行している施設なども参考にして、仕組みの整備に着手することを期待します。 |
| ポイント2 | 中高生世代児童の利用促進のための取組みの充実を期待します |

| | |
|--|---|
| | <p>毎日 5 時以降に設定されている中高生タイムのほか、月 1 回「中高生 S P A C E」という中高生世代限定プログラムがあります。中高生からの意見を元に毎回趣向を変えて取り組んでおり、実施日は開館時間を午後 7 時まで延長しています。児童館だよりも掲載して中高生世代の来館を促す努力をしています。</p> <p>今後は、小学校高学年時から継続して利用がされるような一層のプログラムの充実、広報の拡充、児童自身がプログラムを運営するような取組みに発展させ、児童館が自分たちの居場所として認知され、利用の促進が図られることを期待します。</p> |
|--|---|